

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	河川等維持補修事業			会計	款	項目	大事	小事
				01	08	03	02	01
政策	01	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）		主管課	河川課			
施策	1-6	安全性と快適性を兼ね備えた河川・排水路整備		主管課長	池田 輝昭			

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	準用河川及び水路の構造物及び関連施設	意図	排水機能及び施設の安全性を確保する。
事業内容	河川施設の維持修繕工事を実施するとともに、地元自治会からの要望により、水路の蓋かけ工事を実施するものである。			
事業開始から現在までの状況変化	老朽化による施設の修繕が必要が高まっている。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	小破修繕工事件数	21	14	19	件	↓↓↓
②							
③							
④							
⑤							
⑥							

指標で表すことができない定性的な成果

目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）
緊急に対応すべきものと計画的に実施すべきものを仕分けし、対応している。

事務事業のコスト	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事務事業の総コスト(a=b+c)	23,208,580	20,776,732	25,065,520
事業費(b)(円)	17,991,180	15,675,612	20,055,600
うち一般財源	17,991,180	15,675,612	20,055,600
職員給与費(c)(円)	5,217,400	5,101,120	5,009,920
人役・職員(人)	0.76	0.76	0.76
人役・再任用(人)			
人役・臨職(人)			
人役・嘱託(人)			
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）			
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）			

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	・排水施設の機能を確保するため、補修を行う。 ・地元要望に応じた水路の蓋かけ工事を行う。	③取組における課題(Check)	・排水施設の老朽化に伴い、施設補修費は増加傾向となる。
②H30に実施した取組(Do)	・緊急性を要する施設補修を実施した。 ・住宅地の水路に蓋かけ工事を実施した。	④課題に対する今後(H31～)の改善計画(Action)	・施工方法の検討により、経費を削減を図る。